

バイオなどの新技術と学際的研究で循環的未来と地域貢献を

No.
3


Ishikawa Prefectural University NEWS

石川県立大学広報

2006.12

産学連携・ベンチャー向けの賃貸施設 いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)の活動開始

【石川4大学連携型起業家育成施設】



i-BIRD の活動により、産学連携の促進による地域社会への貢献が期待されます。

本号の内容

- いしかわ大学連携インキュベーター(i-BIRD)の活動開始 1-2
- 平成18年度入学式 2
- 平成18年度プロジェクト研究について 3
- 親睦スポーツ大会・食談会 3
- 学生自治会の紹介 4
- サークル活動 4
- 県大生、千枚田でボランティア 5
- 社会で活躍中の農短大卒業生からのメッセージ 5
- オープンキャンパス 6
- 石川県農林漁業祭りで研究成果をアピール 6

発行 石川県立大学広報委員会
みなさんのご意見をお待ちしています
インターネットホームページ <http://www.pref.ishikawa.jp/ishikawa-pu/>

〒921-8836 石川県石川郡野々市町末松 1 丁目 308 番地
電話 / 076-227-7220 FAX / 076-227-7410

電子メール kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp

産学連携・ベンチャー向け貸貸施設 いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)の活動開始

独立行政法人中小企業基盤整備機構(略称「中小機構」)が、石川県立大学キャンパス内に整備した「いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)」(詳細は<http://i-bird.smrj.go.jp/>)の入居が、9月より始まりました。

「いしかわ大学連携インキュベータ(i-BIRD)」は、中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律に基づき、中小機構が石川県・野々市町から要請を受け、整備を行った大学連携型起業家育成施設(インキュベータ)です。

本事業は、石川県の主要4大学(金沢大学、北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、石川県立大学)等が有するライフケア、医療、環境、食品等分野の技術シーズ・人材等の蓄積を活用したものです。施設には、支援スタッフ(インキュベーション・マネージャー)が常駐し、主要4大学をはじめ、県、町及び地域の支援機関等と連携して、入居者の事業活動を総合的に支援します。

本事業は、(1)大学発ベンチャーの創出、(2)地域企業等の新事業創出、(3)産学連携の促進による地域社会への貢献を目的としたものです。i-BIRDの活動に皆様のご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



産学・地域委員会委員長
熊谷英彦教授

◇「i-BIRD」の由来

i (ishikawa、いしかわ)

BI (Business Incubator、ビジネスインキュベータ)

RD (Research & Development、研究・開発)

上記の頭文字からつけられた名称です。研究・開発を通じた新事業創出により、インキュベータ(孵化器)から鳥(BIRD)になって羽ばたいて行くイメージを示しています。

平成18年度石川県立大学入学式

134名の新入生を迎え入学式が平成18年4月6日に行われました。丸山利輔学長は挨拶で、本学の第2回目の入学生として、本学の学風を作ってゆくという使命に留意し、地球温暖化にニュートラルな生物資源の諸科学を勉強し、優秀な教員と交わり、またクラブ活動などを通して多くの友人とつきあい、豊かな学生生活を送って下さいと述べました。谷本正憲知事は記念の挨拶で、国際的に優秀な教員と新しい研究・教育施設、さらに産学協同による新事業の開発で地域貢献に資するインキュベーター i-BIRDの今夏の完成を十分に利用し、勉強やスポーツなど実り多い学生生活を送るよう励ましました。



平成18年度プロジェクト研究について

本学の競争的研究資金制度である、プロジェクト研究の募集・審査が行われ、6月27日の企画調整委員会で下の表のように採択され、現在研究が実施されています。

H18年度プロジェクト研究の採択状況について

区分	代表者職氏名	学科等名	プロジェクト名
一般研究	教授 古賀 博則	生産科学科	いもち病感受性イネに見いだされた新規の全身的抵抗性反応の発現機構の解明
	教授 菊沢 喜八郎	環境科学科	流域の水収支の一環としての森林の年間蒸散量に関する研究
	教授 鈴木 隆元	食品科学科	食育のための食品抗酸化能と酸化ストレスとの関係の解明
	助教授 大谷 基泰	生物資源工学研究所	高アミロース澱粉を生産するサツマイモの創成とその澱粉特性
全学	助教授 稲葉 宏和	教養教育センター	並列計算システムの構築とセルオートマトン法への応用
教育改善	教授 菊沢 喜八郎	環境科学科	大気二酸化炭素吸収に果たすブナ林の役割
	教授 金子 劭榮	教養教育センター	本学学生の基礎能力を高めるための教育方法改善に関する基礎研究—e-learningによる個人学習支援の可能性—
地域貢献	教授 上田 哲行	環境科学科	生物学・生態学関連科目の教材としての映像データベースの作成
	教授 米林 甲陽	環境科学科	手取川の濁水の原因物質である粘土の鉱物組成の解明
若手研究	助教授 久田 孝	食品科学科	能登のナレズンに関する研究
	助手 本多 裕司	食品科学科	微生物由来GH19キチナーゼの反応機構の解明
	助手 田中 栄爾	環境科学科	植物病原糸状菌の組織内伸展機構の解明
	助教授 吉城 由美子	食品科学科	簡単臨床検査法としての活性酸素消去発光分析の実用化
	助手 濱田 達朗	生物資源工学研究所	イネ種子における薬理活性のある新奇高度不飽和脂肪酸の生合成

親睦スポーツ大会・食談会

本年5月29日に、学生と教職員の懇親会である食談会が開催されました。今年の食談会は本学の創立記念日に開催され、企画はすべて学生自治会が行いました。食談会に先だって、学生と教職員との懇親を深めるためのスポーツ大会が行われました。夕刻より県立大のプラザで、元吉智美学生自治会長の挨拶の後、学長、学生部長の挨拶があり、石川県立大学の学生、教職員がバーベキューなどを楽しみ、全員でゲームなどをして、親睦を図りました。以下そのスナップ写真を掲載します。



スポーツ大会で親睦を深めました。



バーベキューパーティ（学生たちと学長と事務局長）



学生自治会長の挨拶



学生による踊りの披露



ゲーム大会

学生自治会の紹介

- ・主に部活動の統率・管理、大学行事の企画・運営をしています。
- ・今年度の行事は、食談会（スポーツ大会、バーベキュー大会）と響緑祭（本学の学園祭）でした。
- ・新設大学のため、決めなくてはならない事が多く大変ですが、14人で仲良く楽しく真面目に活動しています。



「学生自治会のメンバーです。」

手にしているのは、
本学の学園祭である「響緑祭」のポスターです。

サークル活動

18年度の活動団体は下記の25サークルです。

ソフトボール部	吹奏楽部
軟式野球部	あぐり
陸上競技部	ESS
バドミントン部	料理サークル
男子バレーボール部	釣り&レジャー部
女子バレーボール部	煎茶サークル
男子バスケットボール部	よさこいソーラン部
女子バスケットボール部	IPU SPRINTERS (ジョギング)
フットサル部	お茶のサークル
テニスサークル	華道・フラワーアレンジ
弓道部	花爽涼彩 (学内に草花を植え、育てる)
Hula (ダンス部)	漫画研究会 (漫画研究)
軽音楽部	



男子バレーボール部 「集え!バレー狂」



料理サークル

男女20名、大学の調理室で楽しく料理しています。普段は家庭料理を作ることが多いのですが、大学祭にて、昨年は手打ちパスタ、今年は中華まんを手作りしました。



サークル「あぐり」

大学農場の一角で野菜を育てています。今年の収穫はいちご、じゃがいも、トマト、ナス、枝豆、さつまいも、ねぎです。能登の千枚田への田植え遠征は恒例行事になりました。

県大生、千枚田でボランティア

輪島の千枚田における県立大生らのイネ刈り援農。
過疎化が進む能登半島棚田での稲作維持には、平地に比べ多大な労力がかかります。学生らは作業を手伝いながら、条件不利地域で農業をするうえでの諸問題を体験学習しました。



平成18年9月23日、白米にて

社会で活躍中の農短大卒業生からのメッセージ

昭和52年農学科卒 山内 外茂男さん

ただ今、石川県農業短期大学33年生

青果流通業（仲卸）へ就職し、仲買の自分が生産者や取引先を前向きにリードするにはどうしたら良いかと考えました結果、現在消費者が望んでいる野菜の栄養・安全性・食味を消費者や生産者そして我々流通業も同時に分かるように数値化することを思いつきました。このころちょうど取引先から優良野菜の基準作りを依頼されておりました。それからというもの、8年間で必須科目500単位とれるくらいの猛勉強が始まりました。その猛勉強の軌跡を、全国でも有名な流通ジャーナリスト小林彰一先生がとても高く評価してくださりました。また、県立大学の長谷川先生より「山内式野菜品質評価法」と命名して頂き、今回の出版となりました。

私の後悔や失敗談に基づく今から社会へ出る皆さんへの言葉

その1. 生産者に最も大切なものは、売るための栽培でなく、人が食べるもとしての栽培。
その2. 人脈を増やすコツは、年賀状です。一度だしたら終生出しましょう。年に一度だけでも相手の顔を思い出して筆をとるのです。最も仕事盛りの40歳代まで続ければあなたの人脈は横綱と序の口ぐらいの差がついています。ちなみに私の年賀状は300枚ぐらいです。
その3 自分がどのように楽しく仕事をするか、石の上にも3年ということわざ通り、どんな仕事にも発見・驚き・改善はつき物。人生80年は地球46億年の歴史の中では砂丘の砂粒1個ぐらい、大変短い人生です。自分を大切に自分の為に生き生きと生きてください。あなたが生き生きとした人生をおくれば、結果的に知らず知らず社会貢献していることが有るはずですよ。



山内外茂男さん



山内式
野菜品質評価法の本

オープンキャンパス

石川県立大学オープンキャンパスが本年8月18日に行われ、県内172名、県外36名合計208名（内女子136名）の参加がありました。初めに参加者全員に対し、学長挨拶、続いて学生部長から入試、カリキュラム等に関して概要説明がありました。本学を構成する生産科学科、環境科学科、食品科学科、教養教育センター、生物資源工学研究所の長が各部門の教育研究の内容を説明しました。その後本学の丸山 利輔学長の「環境と水」と題する記念講演が行われました。

昼休み時には昼食の試食を参加者一同が県立大学食堂で楽しみました。昼食の後、参加者は大学施設の見学と個別相談コーナーでの相談にも参加しました。

午後は県立大学教員による4つのミニ講義と4つのミニ実験が実験室や講義室で実施され、参加者は大学の講義と実験のエッセンスを楽しみました。オープンキャンパス諸行事の写真を掲載します。



丸山学長による記念講演



ミニ講義「有害有機物を吸着する土壌」



大学食堂での試食会



ミニ実験



ミニ実験

石川県農林漁業まつりで研究成果をアピール

「第28回石川県農林漁業まつり」が10月14日～15日に、石川県産業展示館で開催されました。本学からは長谷川教授、宮脇教授、北村（利）教授、後藤助教授が参加し、研究成果を一般県民にわかりやすくパネルを使って説明しました。



今後の大学の動き

2月25日	前期入学試験
3月7日	学内プロジェクト発表会
3月6～16日	学内研究・教育成果発表会
3月12日	後期入学試験
4月	入学式

<< 編集後記 >>

I P U News（石川県立大学広報）第3号をお届けします。本学は設立2年目となり学生数も増えて、学生生活・教育・研究・地域貢献が活発に行われるようになりました。石川県の主要4大学が連携し、産学連携による地域社会貢献を目指した、インキュベーター（i-BIRD）も、本学キャンパス内に表紙の写真が示すように活動を開始しました。本広報はこのような石川県立大学の研究・教育・地域貢献・学生活動などを、これからもお伝えしてゆきます。

石川県立大学広報委員会